

社会科教科主張

1. 社会科における学び

私たちは、子どもが社会的事象の追究を通して社会認識を深め、「将来にわたって自分とみんなの幸せを実現していくために、自分はどう生きていくか」を問い続けることが、社会科の本質であると考ええる。社会認識は、社会的事象の背景にある人の営みに目を向け、その根本にある人々の願いや情意に思いを致していくことで、はじめて深まっていくものである。子どもは社会的事象に出会うと、自らの目的をもち、観察や調査、資料の収集や分析など追究を始める。その過程で、社会的事象に携わる人々の工夫や努力、苦心などについて考えることで、その人の生き様や、その根底にある願いに気づき、社会的事象について再解釈していく。また、対話をくり返す中で社会的事象にみられる人々の情意にふれると子ども自身の情意も揺さぶられ、「本当にそうなのか」「このままでは…」「これでよいのか」などと自ら問い、社会的な見方や考え方を働かせながら、社会的事象について自分なりに価値判断していく。このような営みをくり返すことで、子どもは社会に生きる人々の様々な工夫や努力、その根底にある願いに心から感動したり、自分自身の成長を実感したりして、自らの価値観を更新するとともに、自身の生活や行動を見つめ直していく。

2. 本校社会科部が考える『その子らしく学ぶ』

3年「いのちのめぐみ ～しずおか牛にゆう物語～」では、A子は単元前半、生き物にかかわることが好きという自身の個性を発揮し、大畑牧場の乳牛という対象に関わっていった。A子は牛一頭一頭の特徴や違いに気付くとともに、牛特有の臭いさえも牛という生き物の一部として受け入れ、A子なりにその生命の尊厳に思いを向けていった。そうしたA子だからこそ、牧場の牛乳を試飲した。「すごいおいしい！また家族でも来たい！」と感動を得たのだろう。さらに、単元を通してA子は酪農家として命に向き合い続けるYさんの仕事に臨む姿やその情意に思いを寄せていった。「この表を見ると、休む時間がない！ほとんど休んでない！」「でもYさんが休みなく働くのは牛からおいしい牛乳を分けてもらうためだよ」の発言、さらに「廃牛」の様子を目の当たりにした後の資料への書き込みなどは、Yさんの具体的な仕事の様子を見て、その情意にふれたことでA子自身の情意も揺さぶられたことの表れといえる。A子は牛乳の生産過程やYさんの働く姿といった社会的事象の追究を通し『命のめぐみ』は、命と命をわけあっているような気がします」というA子ならではの気付きを得ている。

4年「つるっと！ところてんでまちづくり」では、西伊豆地域の人口減少という危機に直面しながらも、ところてん作りに励むSさんやところてん祭りでまちを盛り上げようとする観光協会のTさんに会った。A男は、「ところてん祭りをを行うよりも、西伊豆に住みやすくするために、電車やバスなど交通を便利にすることにお金を使った方がいい」とまちの危機を解決する方法を語った。「今あるものを大切にしていきたい」「鉄道を通すと美しい景色が無くなるよ」といった仲間との対話や「人口が減り続けても、ところてん祭りを続けていきたい」というTさんの情意にふれ、「ところてんを知ってもらうためならば、ところてん祭りをを行う意味がある」とまちのために特産品を生かすことが、ところてん製造業者を始めとしたそのまちに住んでいる人々の生活を支えることになると気付き、まちづくりの概念を再解釈・価値判断することができた。

以上のことから、私たちは、「社会的事象に出合ったその子が、生活経験に裏打ちされた感性をもとにしながら、明らかにしたくなった問いについて、じっくりと追究していくことで、社会的事象について再解釈・価値判断し、その子が自分自身の社会認識を深めたり、現実社会における自分自身の生き方を見つめたりしていくこと」を、社会科における『その子らしく学ぶ』であると考えている。

3. 『その子らしく学ぶ』子どもを支える環境設定

(1) 子どもの目的と重なる、社会的事象に携わる人物との出会いを設定する

- ・子どもが社会的事象に関心をもち「聞いてみたい！」「もっと知りたい！」という思いや問いをもつタイミングで人物との出会いを設定する。
- ・子どもが社会的事象を自分事として考え始め「どうしてだろう」「このままでは…」と、切実感をもつタイミングで人物との出会いを設定する。

(2) 子どもが問いや思いをより切実なものにできるような資料との出会い方を工夫する

- ・子どもの追究意欲が高まっていくような資料を例示する。
- ・価値観が揺れ動いたり、広がったりするような追加資料を提示する。

(3) 子どもが自分の思いや考えを確かなものにするための場を設定する

- ・資料について解釈したことを語る場。(表出)
- ・お互いの考えや価値観をぶつけたり、認めたりする場。(共有)
- ・根拠となる事実を吟味し関連づけたり、振り返ったりする場。(自己内対話)